平成 20 年度外部評価の実施結果【概要】

※頁：平成 20 年度　外部評価実施結果報告書の参照頁

1　目的（3 頁）

行政評価制度における取組の一環として、行政内部による事務事業評価に外部の視点を加え、評価における客観性・透明性を確保することなどを目的として実施

2　実施方法（4～6 頁）

外部評価者において、評価表等資料の事前確認等の後、2 日間にわたり 1 事業につき原則 30 分間のヒアリングを実施。その後、再ヒアリングや外部評価者全員による意見交換を行い評価を確定

3　外部評価者の構成（9 頁）

自治体・企業経営コンサルタントや企業経営者等を含む 6 名体制で実施

4　外部評価対象事業（10～11 頁）

内部評価の結果を踏まえ一定基準及び各課提案に基づき行政経営推進本部会議を経て決定した 68 事業※を対象。なお、今年度も 13 件の補助金等事業を評価対象に含めた。

※　68 事業中 8 事業に 13 件の補助金等を含む（1 事業に複数の補助金等を含む場合がある）。

5　実施スケジュール（12～15 頁）

○平成２０年８月２５日（月）及び２６日（火）		ヒアリング
○平成２０年８月２９日（金）	午前	再ヒアリング
○　〃	午後	外部評価結果の確定

6　外部評価実施結果（16～42 頁）

⑴　実施結果

評価	平成２０年度		平成１９年度		平成１８年度		平成１７年度	
		構成比		構成比		構成比		構成比
A：事業内容は適切である	3 事業	4%	1 事業	2%	0 事業	0%	1 事業	2%
B：課題が少しあり事業の一部見直しが必要	59 事業	87%	53 事業	87%	62 事業	86%	37 事業	74%
C：課題が多く事業の大幅な見直しが必要	5 事業	7%	6 事業	9%	10 事業	14%	10 事業	20%
D：事業の休・廃止を含めた検討が必要	1 事業	2%	1 事業	2%	0 事業	0%	2 事業	4%
計	68 事業	100%	61 事業	100%	72 事業	100%	50 事業	100%

※　平成 16 年度の試行から通算 301 事業について外部評価を実施

⑵　内部評価結果と外部評価結果の比較

内部評価		外部評価			
評価	事業数	A	B	C	D
A	10	3	6①	1②	
B	58		53	4③	1④
C					
D					
計	68	3	59	5	1

※　網掛け：内部評価と外部評価が不一致のもの

内部評価と異なる外部評価結果となった事業は 12 事業

	参照先
①内部Ａ⇒外部Ｂ	18～19 頁　No.60,65,163,401,456,521
②内部Ａ⇒外部Ｃ	19 頁　No.179
③内部Ｂ⇒外部Ｃ	19～20 頁　No.300,320,355,362
④内部Ｂ⇒外部Ｄ	20 頁　No.99

（参考）各年度別の内部評価・外部評価の一致・不一致

	一致	不一致
平成 16 年度	32 事業（64%）	18 事業(36%)
平成 17 年度	33 事業（66%）	17 事業(34%)
平成 18 年度	57 事業（79%）	15 事業(21%)
平成 19 年度	52 事業（85%）	9 事業(15%)
平成 20 年度	56 事業（82%）	12 事業(18%)

※　網掛け：内部評価と外部評価が不一致のもの

●内部評価と外部評価の一致率が高い水準で推移
●内部評価の客観性を継続して確保

⑶　補助金等事業についての外部評価結果(21～22 頁、40～42 頁)

内部評価		外部評価						
区分	事業数	継続	減額（縮小）	廃止	終期設定	統合・メニュー化	減額（縮小）・終期設定	終期設定・統合・メニュー化
継続	5	4				1❶		
減額（縮小）	1				1❷			
廃止								
終期設定	3				2		1❸	
統合・メニュー化	1				1❹			
減額（縮小）・終期設定	2						2	
終期設定・統合・メニュー化	1							1
計	13	4			4	1	3	1

※　太　枠：内部評価と外部評価が一致するもの
※　網掛け：内部評価と外部評価が不一致のもの

内部評価と異なる外部評価結果となった補助金等事業は 4 事業

評価結果区分	補助金等事業
❶継続 ⇒ 統合・メニュー化	畜産環境衛生整備事業費補助金
❷減額（縮小） ⇒ 終期設定	越谷市工業所有権取得費補助事業
❸終期設定 ⇒ 減額（縮小）・終期設定	ガールスカウト助成金
❹統合・メニュー化 ⇒ 終期設定	中心市街地活性化推進事業費補助金